考古アラカルト 90

長岡京・平安京の土馬

特別展示「考古資料とマンガで見る呪術－魔界都市京都－展」によせて

http://www.kyoto-arc.or.jp
（公財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

写真１　長岡京東南境界祭祀遺跡で出土した土馬

土馬とは？　みなさんは写真１の土製品が馬に見えますか？犬のようでもあり、狐にも…。

しかし、これはその名の通り、土で作った馬で、土馬（どば）と呼ばれている遺物なのです。土馬は、古代の都や各地の役所から出土します。

長岡京・平安京で出土する土馬は、三日月形の顔をしており、目は丸く、顔の横には低い位置に短い耳がついていて、脚は短く、上向きの太い尾を持っています（写真１）。都の道路側溝や区画溝、川跡などでは、墨書人面土器（墨で顔を描いた土器）やミニチュア土器と一緒に出土することが多い遺物です（写真２）。

土馬の用途　では、この土馬は何に使っていたのでしょうか？

馬は古来より人にとって重要な動物で、荷物を運んだり、戦いにも用いられていました。その反面、雨乞いのために牛とともに馬を殺す儀式を行なうこともありました。

平安時代末期に成立した『今昔物語集』には、作り物の馬が登場します。名高い陰陽師である賀茂（かもの）忠行（ただゆき）が行なったお祓（はら）いの場には、食べ物や作り物の船や車、馬が供えられており、鬼神たちがその食べ物を食べ、置いてあったそれらの乗り物に乗って帰っていったことが記されています（巻 24 第 15 話　賀茂忠行、子保憲に道を伝へる話）。陰陽師の行なった祓いの儀式に、鬼神が帰る（鬼神を祓う）

写真２　中久世遺跡で出土した土馬・墨書人面土器・ミニチュア土器

ための乗り物として作り物の馬が使用されていたことがわかります。

また、殺生を禁ずる仏教が広まることで、本物の馬を儀式に使用する代わりに土などで作った馬を用いることが増えていきました。

藤原京の土馬　では、都で出土する土馬の変化を見ていきましょう。

藤原京は７世紀末から８世紀初頭にかけての都です。藤原京で出土する土馬は、形態が多種多様なことが特徴です（写真３）。多くは、たてがみをもち、脚は太い円柱形で直立し、尾は垂れ下がっています。目は細い棒や竹管などを突き刺した穴で表わします。鼻や口を表現するものもあります。また背中に鞍をつけ、馬具を表現する文様も少なくありません。平安京の土馬に比べ、随分「馬」っぽい気がします。

藤原京では、土坑や井戸などから土馬のみ単独で出土する例が多く見られます。

平城京の土馬　平城京は藤原京に続く８世紀代の都です。これまで様々な形態をしていた土馬が、平城京では写実性が見られなくなり、定型化します（写真４）。

三日月形をした顔の横には、竹管を用いて表現された目と細長い耳がつき、先細りの足は外に向けて踏ん張ります。尾は下がっているものと、ピンと上を向いているものがありますが、作り方や基本的な特徴は同じです。この平城京になって定型化した土馬は、都や役所から出土することが多いので、「都城型土馬」と呼ばれます。平城京の土馬は、長岡京・平安京の土馬に似ていますね。

平城京では、邸宅内から単独で出土する例もありますが、道路側溝などから墨書人面土器やミニチュア土器ともに大量に出土する例が数多くあります。100 点以上がドバっと出土することもあります。奈良時代の人々が頻繁に土馬を使った儀式をしていたことが窺えます。

長岡京・平安京の土馬　長岡京・平安京の土馬は、平城京よりも小型になります（写真１）。耳の位置が下がり、尾も上向きのものばかりです。土馬の形態が、藤原京、平城京、長岡京・平安京と、新しくなるにつれて小型で簡素な作りになっていきます。

平安京では、土馬の出土数は平城京に比べて大幅に減少します。道路側溝や川跡で墨書人面土器やミニチュア土器とともに出土する例もありますが、ほとんどは邸宅内で、土馬が単独で出土します。

そして、藤原京から形を変えながらも存在し続けていた土馬は、10 世紀頃から出土例がなくなり、平安京でついに終焉を迎えます。

飛鳥時代からお祓いに使用されていたと考えられる土馬が、平安時代でなぜ使用されなくなるのかは、わかっていません。きっと平安時代の人々の信仰に関する儀式の方法に、なにか大きな変化が生まれたのでしょう。

古代の人々が、どのようなケガレを祓うために土馬を使用したのでしょうか―。考古学では、人の心の中を読み取ることはとても難しいのですが、このような遺物から平安時代の人々の精神世界が少しでも読み取れるのではないでしょうか。　（松吉祐希）

写真３　藤原宮で出土した土馬（奈良文化財研究所提供）

写真４　平城宮・京で出土した土馬（奈良文化財研究所提供）